

第1章 総合科学部の設立・理念・計画

第1節 設立

1. 趣旨

総合科学部は、広島大学が東広島市に統合移転を決定したことにもなつて、研究と教育を刷新するいわゆる大学改革のための重要な柱として、次のような目的を基本に据え、昭和49(1974)年6月に設置された。

- ①総合科学部は、基礎的諸科学の研究とともに、諸分野相互間の密接な連絡・協力を図り、総合的な研究領域の開拓と創造を目的とする。
- ②教育面においては、一般教育と専門教育との一体化を図り、一般教育の内容の拡充と、専門教育の内容の広域化を企図し、人間性を涵養し多様化した現代社会に適應する人材を育成する。
- ③総合科学部は、学生に対して、新しい型のリベラル・エデュケーションを行うと同時に、全学学生に対し、たて割りカリキュラムによって一般教育を行い、各自の専門領域と相即相補の関係において全人教育に資する。

2. 沿革

昭和24(1949)年5月31日

旧制広島高等学校を母体として広島大学皆実分校(通称「教養部」)が発足。一般教育を担当。

昭和36(1961)年3月6日

皆実分校の東千田町キャンパスへの移転完了。広島大学分校となる(学内の呼称は「教養部」)。

昭和39(1964)年4月1日

国立学校設置法施行規則改正により、広島大学分校は教養部となる。

昭和49(1974)年6月7日

国立学校設置法改正により、教養部を発展的に解消して総合科学部が設置される。地域文化・社会文化・情報行動科学・環境科学の4コース、日本研究・アジア研究・ヨーロッパ研究・英米研究・比較文化研究・社会文化研究・情報行動基礎研究・人間行動研究・基礎科学研究・自然環境研究・英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・保健体育の16(大)講座、学生定員120名。

昭和50(1975)年3月31日

教養部廃止。

昭和53(1978)年4月1日

大学院地域研究研究科(地域研究専攻, 修士課程), 同環境科学研究科(環境科学専攻, 修士課程)設置。

昭和 60 (1985) 年 4 月 1 日

大学院環境科学研究科修士課程及び同農学研究科修士課程の改組により同生物圏科学研究科(環境計画科学専攻, 生物機能科学専攻, 生物生産学専攻, 博士課程)設置。

昭和 61 (1986) 年 4 月 1 日

総合科学部入学定員の改訂(臨時増募 20 名), 学生定員 140 名。大学院地域研究研究科修士課程, 同法学研究科修士課程及び同経済学研究科修士課程の改組により同社会科学研究科(法律学専攻, 経済学専攻, 国際社会論専攻, 博士課程)設置。大学院工学研究科に情報工学専攻(博士課程)増設。

昭和 62 (1987) 年 3 月 24 日

大学院環境科学研究科廃止。

昭和 62 (1987) 年 4 月 1 日

総合科学部入学定員の改訂(臨時増募 30 名), 学生定員 170 名。教育組織の改組。既設の 4 コースを改組・再編して, 地域文化・社会科学・外国語・数理情報科学・物質生命科学・自然環境研究・生体行動科学の 7 コース制とした。

平成元 (1989) 年 9 月 30 日

大学院地域研究研究科廃止。

平成 3 (1991) 年 4 月 1 日

総合科学部入学定員の改訂(10 名増員), 学生定員 180 名。

平成 4 (1992) 年 4 月 1 日

教育組織の改組。地域文化・社会科学・外国語の文系 3 コースを再編成して, 新たに人間文化コースを設置し, 8 コース制とした。

平成 5 (1993) 年 3 月 31 日

総合科学部が, 東広島市に移転完了。

平成 5 (1993) 年 4 月 14 日

東広島キャンパスで授業開始(ただし, 文学部は平成 6 年 3 月まで, 法学部・経済学部及び学校教育学部は平成 7 年 3 月まで, 法学部・経済学部第二部(平成 7 年 4 月より夜間主コースに変更)の一般教育は東千田キャンパスで実施)。

平成 6 (1994) 年 4 月 1 日

大学院国際協力研究科(開発科学専攻, 博士課程)設置。

平成 7 (1995) 年 4 月 1 日

大学院国際協力研究科に教育文化専攻(博士課程)増設。

平成 8 (1996) 年 4 月 1 日

総合科学部入学定員の改訂(臨時増募 10 名の削減), 学生定員 170 名。

平成 8 (1996) 年 10 月 1 日

情報教育研究センター(学内措置)設置。

平成 9 (1997) 年 4 月 1 日

教養的教育が全学実施体制に移行。

平成 11 (1999) 年 4 月 1 日

総合科学部入学定員の改訂（臨時増募 30 名の削減）、学生定員 140 名。大学院生物圏科学研究科に環境循環系制御学専攻（博士課程）増設。

平成 12（2000）年 4 月 1 日

総合科学部入学定員の改訂（臨時増募 10 名の削減）、学生定員 130 名。新教育カリキュラムを、人間文化・地域文化・社会科学・外国語・数理情報科学・物質生命科学・自然環境研究・生体行動科学の 8 コース制から、環境共生科学・地域科学・人間科学・言語文化科学・情報行動科学・創造科学の 6 つのプログラム制に移行。

平成 15（2003）年 4 月 1 日

教員組織の改組。16（大）講座を広域文化研究・社会環境研究・制作科学・言語文化研究・行動科学・数理情報科学・物質科学・自然環境科学の 8 講座に再編成。

平成 16（2004）年 4 月 1 日

国立大学法人法施行。

平成 18（2006）年 4 月 1 日

総合科学部プログラム制改革により、環境共生科学・地域科学・人間科学・言語文化科学・情報行動科学・創造科学の 6 プログラム制から、地域文化・社会文化・人間文化・言語文化・行動科学・スポーツ科学・生命科学・数理情報科学・総合物理・自然環境科学の 10 プログラム制に移行。大学院総合科学研究科（総合科学専攻，博士課程）設置。学生定員は，博士課程前期 60 名・博士課程後期 20 名。教育組織は，1 専攻（総合科学専攻）で，21 世紀科学プロジェクト群（総合科学研究プロジェクト・教養教育研究開発プロジェクト・平和科学研究プロジェクト）と，次の 3 部門（11 領域）で編成（人間科学（生命科学研究・人間行動研究・身体運動科学研究・言語研究・人間存在研究）・環境科学（自然環境研究・総合物理研究・情報システム環境研究・社会環境研究）・文明科学（文明史基礎研究・地域研究））。教員組織は，6 講座で編成（行動科学・人間文化研究・環境自然科学・情報システム研究・社会文明研究・地域研究）。

平成 25（2013）年 4 月 1 日

総合科学部新プログラム制導入により，地域文化・社会文化・人間文化・言語文化・行動科学・スポーツ科学・生命科学・数理情報科学・総合物理・自然環境科学の 10 プログラム制から，総合科学プログラムの 1 プログラム制に移行。

平成 30（2018）年 4 月 1 日

総合科学部国際共創学科設置。総合科学部は 1 学科から 2 学科となり，学生定員は，総合科学科は 130 名から 120 名に，国際共創学科は 40 名。これに伴い，総合科学プログラムと国際共創プログラムの 2 プログラム制に移行。

情報科学部が設置され，総合科学部から情報系教員数名が移籍した。

平成 31（2019）年 4 月 1 日

大学院統合生命科学研究科（統合生命科学専攻，博士課程）設置。これに伴い，一部新入生の同研究科への移行。

令和 2（2020）年 4 月 1 日

大学院人間社会科学研究科（人文社会科学専攻，博士課程）・大学院先進理工系科学研究科（先進理工系科学専攻，博士課程）設置。これに伴い，両研究科への新入生の移行。大学院総合科学研究科の学生募集停止。

第2節 理念・目標

総合科学部は、次のような教育の成果に関わる理念を掲げ、教育目標と卒業生像を明確にして、学際性、総合性及び創造性に基づく総合的知見と思考力を涵養するための高度教養教育を旨とする到達目標型専門教育を行っている。

- ①複数の学問分野にまたがる学際的領域や、学問の既存の枠組みを超えた新領域に対する知的関心を喚起し育成する。
- ②深い思考と観察，独創的な実験，豊かな想像力によって，新しい学問分野の創造をめざす知的活動をうながす。
- ③つねに活発な学問的関心をいただき，新しい知的状況に対応できる，自主的・自立的な人間を育成する。
- ④異文化への共感と理解を深めると同時に，自己の見解を説得的に提示することにより，国際社会で活躍できる，積極的で意欲にあふれた人材を養成する。

上記の理念を実現するために，次に掲げる目標の達成に努める。

- ①学際性・総合性への知的関心の開発に関しては，基礎科学を含む既存の学問体系を尊重しながら，現代の課題を柔軟な総合的方法で解決していく能力を育成する。
- ②新しい学問分野の創造に関しては，複雑で多岐にわたる知識と情報を収集整理し，これらを分析統合する科学的・創造的能力を育成する。
- ③活発な学問的関心と自主性・自立性に関しては，文科系と理科系の区分にとらわれない調和のとれた教育によって，幅広い視野から学問を愛し，自分の責任において考え行動する人間を育てる。
- ④国際性に関しては，外国語と日本語の表現・理解能力及び豊かな感性を涵養することによって，異文化間の適切なコミュニケーション能力を養う。

これらの点は「広島大学総合科学部細則」などで明示し，学生便覧やそれに基づくオリエンテーションで学生への周知を徹底している。

第3節 中期目標・中期計画及び部局組織評価

1. 概況

第2節で掲げた理念・目標に沿って教育研究活動を推進するため、本学部では、全学の中期目標・中期計画等の基本方針を踏まえた上で、「第3期中期目標・中期計画」での学部計画を着実に遂行させ、改善活動に努めるとともに、目標の達成に向けて取り組んできた。

令和4年度から、新たに「第4期中期目標・中期計画」が開始され、策定された全学の目標・計画の遂行に加え、学部独自の目標・計画（表 1-3-1）として「総合科学部の理念である学際性、総合性、創造性を追求し続ける」¹教育とそれを実現するための研究促進を目標に掲げ、さらなる飛躍と発展に努めている。

また、大学の法人評価の一環として行われている部局組織評価では、目的として、「部局の特色や課題への対応状況の自己点検・評価を基に、学外者（経営協議会学外委員1名以上を含む。）の評価を受け、部局の特徴・特色を伸ばすとともに課題の改善に結びつけることを目的とする。」²とされ、平成20年度から毎年実施されており、評価対象組織の中から、輪番でヒアリング対象組織が決定される仕組みとなっている。

本学部では、この「部局の組織評価」において、令和5年度にヒアリング評価を受けており、部局組織評価シート（表 1-3-2）を提出した。ここでは、本学部の取組状況の自己点検・評価を基に外部有識者（経営協議会学外委員）から助言も含めた評価を受け、学長によるヒアリング及び学長コメントで指摘を受けた課題（表 1-3-3）に対して、部局として対応した状況を報告し、より一層の改善に繋げている。

¹ 表 1-3-1「部局等における第4期中期目標・中期計画・年度計画」の中期目標から一部抜粋、引用。

² 2023年6月13日総務グループ発出メール添付「令和4年度部局組織評価の実施について」の目的から引用。

表 1-3-1 部局等における第4期中期目標・中期計画・年度計画

(様式 2) < 2. 部局独自の目標・計画 >

部局	中期目標	中期計画及び評価指標
	I 教育に関する事項	I 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置
総合科学部	<1> 総合科学部の理念である学際性、総合性、創造性を追求し続けるために、学問分野の壁を越えた俯瞰的視点を学生が身に付けるための教育研究活動を促進する。	<1>-1 総合科学部生や関連する大学院生が主体となつて行う学際的な活動である学生独自プロジェクトを毎年募集し、人的、情動的、経済的支援を行う。各プロジェクトにアドバイザー教員を付け、審査や発表の過程を通して多くの教員と質疑応答を行い、学内外を対象として成果を発表する機会を設ける。また、SDGs における学際性の重要性を学部生が認識できるように SDGs 関連のテーマの申請を推奨する。
		評価指標 <1>-1-1 学際性、総合性、創造性の観点から取組の過程や成果に対して評価を行う。
		<1>-2 教員が主体となつて行う総合科学推進プロジェクトの研究過程や成果を総合科学部の専門授業で総合科学の具体例として提示することによって、総合科学部生が学際性、総合性、創造性について考えることを促す。また、プロジェクトに参加する学生に総合科学を体験する機会を与える。
		評価指標 <1>-2-1 総合科学推進プロジェクトに対する学部生の興味関心や理解度に基づき教育効果を評価する。
	II 研究に関する事項	II 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置
総合科学部	<2> 総合科学部の理念である学際性、総合性、創造性を実現するための共同研究プロジェクトを促進する。	<2>-1 総合科学部担当教員が主体となつて実施する総合科学推進プロジェクトを毎年募集し、経済的支援を行う。研究の過程や成果を学内外に対して発表する機会を設ける。研究活動として行うと同時に、学部生の授業での紹介を通して学部生の総合科学への認識を深める教育活動としての役割も果たす。
		評価指標 <2>-1-1 研究成果発表会における教員による評価や、学部生の授業での紹介に対する学部生の評価を基に、各プロジェクトが総合科学の具体例となっているかを評価する。

※1 年次報告書での現状分析に基づき、「領域 6：教育課程と学習成果に関する基準」を中心に、特色ある取組について 3～5 程度を抜粋して記載してください。評価者に分かりやすく示せるよう、必要に応じて根拠となる資料・データを提出してください。

※2 原則、1 ページ以内、最大 2 ページ以内としてください。

表 1-3-2 令和 5 年度 部局組織評価シート(教育)(令和 4 年度実績分)

部局名：総合科学部

基準分析項目	令和 4 年度 特色ある取組や成果 (エビデンス) ※ 1	頁	備考
2-2: 組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること	総合科学部 計 8 回の FD 研修会 (補足資料 1) を開催し、総合科学部構成員の教育研究能力の向上を図った。教育力を上げるための TA の活用に関する FD ならびに教員が互いの研究内容を知り授業内で他教員の研究分野に言及できるよう近年着任した教員 9 名の研究紹介 FD を開催した。さらに全国の 21 学部が参加した第 27 回新構想学部教育・研究フォーラム (補足資料 2) を総合科学部主幹で開催し、その録画を用いた FD を開催し、他大学における学際教育について学ぶ機会を提供した。	8	
2-2-2: 大学、学部、プログラム等において開催される FD 研修会などに参加し、その内容を教員会等で共有して、教育・研究の改善に役立っていること			
6-6: 大学等の目的及び学位授与方針に即して、適切な学習成果が得られていること	総合科学部 卒業論文は 3 年次後期から開始し、主指導教員に加えて副指導教員 2 名が付き幅広い視点からアドバイスを受けることができる。その結果、学士課程教育卒業時アンケート項目「卒業研究、卒業論文、卒業制作等の指導が充実していた」において、総合科学科では 86.9%、国際共創学科では 78.0% の学生が「十分にあてはまる・あてはまる」と回答している。また、総合科学科の 3 つの教育領域と国際共創学科の 3 つの視点から推薦された計 16 名が一堂に会して日本語もしくは英語で発表を行い、最優秀論文賞 (岡本賞) と優秀論文賞 (補足資料 3) を決定する場を設けており、多様な分野の学生や教員が学際的な視野を広げる機会となっている。	31-32	
6-6-5: 研究に対する取組みや研究成果の発表について、学生の成長を促す仕組みと評価基準が設けられており、効果 (論理的思考、国際性、発表力など) における成長が認められること			
7-1: キャンパスの国際化及びグローバル人材育成の取組が、体系的に行われていること	国際共創学科 日本語母語学生は 2 年次後期に約半年の留学を必修としており、UEA が国際共創学科独自の留学説明会を開催し、留学プログラムへの申請方法を説明し、その後も留学先で履修する科目等について相談に応じている。令和 4 年度は、計 38 名が渡航を伴う留学を行った。 3 年次の夏休み期間に国内外の企業を受け入れ先として 60 時間以上のグローバルインターンシップを実施することを必修としている。令和 4 年度は休学や留学中の学生を除く 36 名がインターンシップを行なった。 (補足資料 4)	35	
7-1-2: 学生への留学プログラム等の周知及び履修指導の支援、経済支援、その他のグローバル人材育成に関わる支援・取組が適切に行われていること			
追加項目	総合科学部 学際研究の成果を学際教育に活かすために、教員が主導して大学院生や学部生も巻き込んで行う総合科学推進プロジェクト (補足資料 5) を行った。採択した 5 件のプロジェクトの成果を総合科学科 1 年生必修の「総合科学へのいざない」で発表し、総合科学の具体例として呈示した。また、学生が主導して行う学際的な活動である学生独自プロジェクト (補足資料 6) を 3 件採択し、その成果を総合科学科 1 年生必修の「総合科学概論」で発表し、学生による学際的な活動の実例を呈示した。そして、これらのプロジェクトを通して総合科学部構成員の学際研究と学際教育の融合を進めた。		

表 1-3-3 令和 5 年度部局組織評価 論評, 部局での対応

部局名：総合科学部

評価者：岩満委員，結城委員，荏田委員，中西委員，大膳委員

	論評【10月】	部局での対応
特筆すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究紹介を含む FD 研修会の積極的実施や他大学とのフォーラム開催など，学際的な教育研究の推進に取り組んでいる。 ・ 学際研究の成果を学際教育に生かす取組や，学生が主導する独自プロジェクトの取組は評価できる。 ・ 卒業論文の早期指導や複数教員による指導を行っており，学生をサポートする体制が充実している。 ・ 各領域から推薦された学生の論文発表会の実施は，学生の成長のみならず教員の指導能力向上の観点からも評価できる。 ・ 国際共創学科は，留学で単位修得が不利にならないカリキュラム設計であり，留学の意欲を低下させない仕組みとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左記に特筆すべき点として挙げていただいた活動は，すべて今後も継続して行う予定である。また，学生独自プロジェクトは，国際共創学科の学生の参加を推進し，国際共創学科の授業でも活動成果の報告を行うことを 2024 年度末までに検討していきたい。さらに教員が行う総合科学推進プロジェクトの紹介についても，総合科学の授業だけでなく，国際共創学科の授業においても行うことを 2024 年度末までに検討していきたい。また，国際共創学科で採用している自由度の高い，留学による単位認定については，今後，総合科学科での採用を 2024 年度末までに検討していきたい。
改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル化への取組みに係る評価指標に就職先を用いるのは適切ではなく，他の評価指標の検討をお願いしたい。 ・ 国際共創学科のグローバルインターンシップは，語学だけでなく，本来の目的（グローバルに活躍できる人材育成）に沿った受け入れ先を増やすためにも，企業・自治体との連携の拡大を期待したい。また，その効果検証に努めてもらいたい。 ・ 大学院進学率を向上させるために，具体的な取組みを強化してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際共創学科の TOEIC の成績や留学実績などを評価指標として用いることを検討し，2024 年度から実施することとした。 ・ 国際共創学科では，大学での学習内容と社会・企業とのつながりを学生自身が確認することを目的に，グローバルインターンシップを実施している。たとえば，世界展開している国内企業に学生を派遣し，彼らが社会から求められているスキルや知識が何であるか気づかせている。この目的を十分理解していただいたうえで，すでに多くの企業や自治体を受け入れ先となっている。今年度は，国内外の 29 の受け入れ先に，あわせて 44 名の学生がインターンとして参加した。ほぼすべての学生が，受け入れ先から「非常に優れている・優れている」と評価されたことから，目的は十分果たされていると考えている。 ・ 大学院進学率を上げるために，新年度の学生ガイダンスにおいて，就職活動情報とあわせて大学院進学情報を説明するセッションを設けることを検討し，2024 年度から実施することとした。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文理融合の特長を生かし，人とテクノロジー進化の融合を図れる人材を育成いただきたい。また，専門が曖昧と評価されぬよう，文理融合の強みを発揮することを期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度からの生命倫理に関する寄付講座設置などを機に科学技術の発展に関する文理融合的視野を持つ人材の育成を進めていきたい。また，俯瞰的視点と複眼思考能力を持つスペシャリストを育成するために，総合科学部構成員の多様性を活かした学際的交流活動「総科カフェ」を 2023 年 12 月から開始し，年度内に計 7 回開催した。

第4節 特色ある教育支援

1. 学生独自プロジェクト

令和2年度の大学院再編に伴い、それまで総合科学研究科の大学院生を対象としていた学生独自プロジェクトに学部生も応募が可能となるように対象を拡大した。その結果、令和2年度以降は、大学院生だけではなく学部生からも応募があり、各プロジェクト上限30万円とする支援を行った。本プロジェクトは、総合科学部の理念（学際性、総合性、創造性）に合致した創意工夫のある活動（学際的研究プロジェクト、学際的学習の促進活動等）の活性化を目指し、学生自身で企画・遂行するプロジェクトを支援することを目的とする。プロジェクトの申請にあたっては、学部生に限らず、複数の大学院生も共同して、プロジェクトサポート教員の助言を得ながらも自主的に研究や社会活動等の計画を立て、計画調書および経費計画書を作成する。提出された調書等は、学部長室会議において審査（必要に応じてヒアリング）され、採否が決定される。プロジェクトの成果は、3月に開催される成果報告会で口頭報告されるとともに報告書の提出が求められる。また、11月に開催されるホームカミングデーの総合科学部企画においても一般に公開される。

過去3年間において採択されたプロジェクトは、表1-4-1のとおりであり、学部生・大学院生は創意工夫のある独創的な研究または活動に対して意欲的に取り組んだ。

表 1-4-1 採択された学生独自プロジェクト一覧(令和4～6年度)

年度	プロジェクト名	支援金額 (万円)	プロジェクトメンバー			
			学部 生	博士課程 前期	博士課程 後期	合計
令和 4年度	カタルバ プロジェクト	19.6	5	2		7
	広島大学総合科学部公式 Open Lab.の企画、運営に関するプロジェクト	29.7	7			7
	地域特性に着目した学園都市での相互型防災活動	30	5		3	8
	総合科学部における生理用品配布の仕組みづくり	17	2			2
	4件	96.3				
令和 5年度	広島大学総合科学部公式 Open Lab.の企画、運営に関するプロジェクト	19.1	9			9
	イベント『星の降る宿、音戸にて。』の開催による音戸町の魅力発信への効果について	26	4	1		5
	広島市の近代史博物館の現状把握と近代史展示の考察—都市の近代化を扱う博物館の役割—	25.9	1	1		2

	大学生における隠れ肥満に繋がる食事・運動・睡眠習慣の実態調査	30	1	1	4	6
	4 件	101				
令和 6 年度	広島大学総合科学部公式 Open Lab.の企画, 運営に関するプロジェクト	16.3	9			9
	酒米, 酒麴, 西条の水で作った米粉パンを西条の観光資源にするための商品像・作り方・売り方の研究	29.5	7			7
	ひがしひろしまフリーコーヒー	20	3			3
	Impact of Information Visualization on Human Traffic Flow in Tourism Spots for tourists	20.7	3			3
	「羽ばたけ! 未来の総科生」 - 総科を目指す高校生に向けた様々なプログラムを, リサーチに基づき立案・実行する -	22.6	6			6
	5 件	109.1				

2. 岡本賞

岡本賞は、元広島大学総合科学部長岡本哲彦氏ご遺族の意志と寄付金に基づき設定した岡本奨学基金により、各年度の総合科学部の学生、大学院総合科学研究科の学生の中から選考され、学業及び人物ともに優秀な者に授与される賞である。同賞の選考及び授与は、平成元年度から実施されている。

大学院再編後、大学院総合科学研究科の学生募集停止に伴い、令和3年度以降は、総合科学部の学生のみ授与されている。

令和4年度から6年度の受賞一覧は、表1-4-2のとおり。

なお、過去の受賞一覧は、以下のサイトから確認できる。

広島大学総合科学部HP<岡本賞>

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/souka/research/win/okamoto>

表1-4-2 岡本賞受賞一覧
(令和4年度 受賞者一覧)

部局・推薦プログラム	氏名	論文題目
総合科学部総合科学科(人間探究領域)	菱川 慶人	MMN(ミスマッチ陰性電位)を用いた前後空間における聴覚弁別処理に関する研究
総合科学部総合科学科(自然探究領域)	佐藤 豪太	超伝導状態とディラックフェルミオン系の類似点・相違点

総合科学部国際共創学科	青柳 仁士	Adaptive Leaf Arrangements to Reduce Self-Shading within a Crown Newly Found in Japanese Monoaxial Trees
-------------	-------	--

(令和5年度 受賞者一覧)

部局・推薦プログラム	氏名	論文題目
総合科学部総合科学科（自然探究領域）	上原 大政	RUSH-TurboID 併用法の開発と TurboID を用いた ARF1/3 のプロテオーム解析
総合科学部総合科学科（自然探究領域）	古田 詩乃	海底堆積物中のポリエチレンテレフタレート定量と瀬戸内海における現存量の推定
総合科学部総合科学科（社会探究領域）	中森 柚子	占領期の「戦災孤児」「浮浪児」「原爆孤児」へのまなざし ―雑誌『社会事業』と広島戦災児育成所の分析から―
総合科学部国際共創学科	青木 美緒	Effects of farming practices on abundance and biomass of earthworms in agricultural farms

(令和6年度 受賞者一覧)

部局・推薦プログラム	氏名	論文題目
総合科学部総合科学科（人間探究領域）	恒松 杏	現代日本における信仰―「Crush!」に対する反応の自然言語解析および実験的検討―
総合科学部総合科学科（自然探究領域）	松浦 大紀	超伝導量子回路を用いた擬似的ブラックホールの蒸発の理論的研究
総合科学部総合科学科（社会探究領域）	上野 柚稀	D・オーエンズ『ザリガニが鳴くところ』にみる沼地のレジリエンス
総合科学部国際共創学科	黒田 和花	A Study on the Image of Tourist Destinations in Educational Dark Tourism: The Case of the Fukushima Study Tour

3. 総科カフェ

総科カフェは、令和5(2023)年度に、学際的な交流の場が少ない、21世紀科学プロジェクトがなくなった、学生は必修授業以外に交流の場が少ない、国際共創学科と総合科学科の交流の場が少ないなどの理由で、学部長室会議に企画を提案し始めた公募型イベントで、上限3万円の経費支援を行う内容である。

募集要項には、「総科カフェは、総合科学部の理念（学際性、総合性、創造性）に基づき、総合科学部の学生や教員の学際的な交流を促進することを目指して開催するものです。下記の内容を確認し、ふるってご応募ください。」とあり、学際的な交流促進を目指すため、SDGsの17Goalsの取組に該当するテーマの場合、開催通知にGoalを記載するよう指示、さらに交流を円滑に行えるようドリンクの提供も謳っている。令和5年度は7件、令和6年度は2件実施した（表1-4-3）。

表1-4-3 総科カフェ実施一覧

年度	NO.	区分	話題提供者 ・学生代表者	企画名(テーマ)	開催日時	会場
R5	1	教員	坂田桐子 関矢寛史	多様性と変動性を活かす!	2023/12/6(水) 12:15~13:1	第1会議室
	2	学生	官 恒 GUAN Heng	How are cities contributing to achievement of the sustainable development goals (SDGs)?	2023/12/8(金) 12:50~14:20	ミライクリエ 2F大会議室
	3	学生	伊藤慎一郎	断片的なものの「研究調査／研究生活」	2023/12/13(水) 12:15~13:45	多目的室
	4	学生	小出浩暉	タバコについて知ろう!	2023/12/20(水) 12:15~13:40	第1会議室
	5	学生	牧野桃子	社会人学生と話そう!	2023/12/20(水) 18:00~19:30	K104講義室
	6	学生	竹内結萌	なんで大学に行くの?	2024/1/17(水) 12:15~13:45	第1会議室
	7	学生	岡村拓海	立体地図を作って体感! 西条盆地の地形と文化	2024/1/31(水) 12:50~14:20	K111講義室
R6	1	学生	牧野桃子	「性の多様性×キャンパスライフ」	2024/6/12(水) 18:30~20:00	東図書館3F セミナー室A, B, C
	2	学生	牧野桃子	ボイストレーニング体験会	2025/1/22(水) 18:00~19:30	K202講義室

4. 総合科学部後援会からの支援(学部共通)

総合科学部後援会は、総合科学部の学生の保護者の会で、学生の教育、課外活動、就職指導等の支援事業、国際交流の円滑な運営のための支援事業、教育研究活動に関する会員向け広報活動を実施している。

学生への支援として、入学直後の新入生オリエンテーション行事経費、外国留学支援金、教育実習経費支援金、外国人留学生との国際交流懇親会経費、卒業記念品の贈呈等を行っている。

5. ひろだいそうか基金(学部共通)

総合科学部は、学生のさまざまな学外活動を支援し、総合科学の教育・研究の発展に寄与することを目的として、令和元年度に広島大学基金内に「ひろだいそうか基金」を設けた。この寄付金「ひろだいそうか基金」を原資として、学生の留学促進に資することを目的に、令和3年度から語学能力試験受験料支援制度を実施している。これは、ギャップタームを利用して外国の大学や研究機関に長期留学する際に入学許可の必要要件として求められる語学能力試験 (TOEFL®, IELTS® 等) の受験料の半額 (千円未満は切り捨て) を補助するという独自で制度で、令和4~6年度に利用した学生数は、表 1-4-4 のとおり。

表 1-4-4 「ひろだいそうか基金」からの語学能力試験受験料支援制度

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計
総合科学科	2	10	5	17
国際共創学科	14	1	7	22
計	16	11	12	39

(単位:人)

6. 総合科学部同窓会からの支援(学部共通)

卒業・修了する学生に対して、総合科学部同窓会から記念品が贈呈されている。

また、同窓会では同窓会員から寄付を募り、取りまとめて「ひろだいそうか基金」に寄付をしていただいている。

7. 点検と評価

上記1～3の項目とも、応募・選考状況は良好である。教育支援は順調であると自己評価したい。

なお、令和4年度、5年度、6年度の総合科学部全体の学生を対象とした学士課程教育卒業時アンケート項目「卒業研究、卒業論文、卒業制作等の指導が充実していた」(いずれの年度も回答率98%程度以上)において、それぞれ84.8%、81.8%、86.1%の学生が「十分にあてはまる・あてはまる」と回答した。同じく「専門教育について、将来(就職後)、役に立つと思いますか?」の項目(いずれの年度も回答率98%程度以上)において、それぞれ84.8%、81.4%、85.5%の学生が「専門教育を総合的に見て、とても役に立つと思うまたは少し役に立つと思う」と回答した。また、「総合的に判断して専門教育の授業に満足しているか」(いずれの年度も回答率98%程度以上)において、それぞれ81.3%、83.7%、84.9%の学生が「大変満足している・満足している」と回答している。いずれの項目のいずれの年度も8割を超えている。

【参考】学士課程教育卒業時アンケート 広島大学 HP>大学案内>自己点検・評価>教育の自己点検・評価>卒業・修了時アンケート

○令和4年度学士課程教育卒業時アンケート(総合科学部 p28-p47)

https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/215569/%E4%BB%A4%E5%92%8C4%E5%B9%B4%E5%BA%A6_%E5%AD%A6%E5%A3%AB%E8%A%B2%E7%A8%8B_%E6%95%99%E8%82%B2%E5%8D%92%E6%A5%AD%E6%99%82%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E9%9B%86%E8%A8%88%E7%B5%90%E6%9E%9C.pdf

○令和5年度学士課程教育卒業時アンケート(総合科学部 p28-p47)

https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/251897/%E4%BB%A4%E5%92%8C5%E5%B9%B4%E5%BA%A6_%E5%AD%A6%E5%A3%AB%E8%AA%B2%E7%A8%8B_%E6%95%99%E8%82%B2%E5%8D%92%E6%A5%AD%E6%99%82%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E9%9B%86%E8%A8%88%E7%B5%90%E6%9E%9C_20250121%E4%BF%AE%E6%AD%A3.pdf

○令和6年度学士課程教育卒業時アンケート(総合科学部 P26-p44)

https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/265860/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%96%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E5%AD%A6%E5%A3%AB%E8%AA%B2%E7%A8%8B_%E6%95%99%E8%82%B2%E5%8D%92%E6%A5%AD%E6%99%82%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E9%9B%86%E8%A8%88%E7%B5%90%E6%9E%9C.pdf